

教育学術新聞
2016年6月8日

『探求型』学習でセミナー

東京電機大
のFD/SD
炭谷 伸
院大
学学
長
むかえ

東京電機大学（安田浩学長）は、五月三十一日、同大学で、第二回FD/SDセミナーを開催した。講師に炭谷俊樹神戸情報大学院大学学長を招いて、「学生の学習意欲と課題発見・解決能力を高める授業運営」「探究型学習」に必要なマインドとスキル」をテーマにワークショップを行い、学内外から多数が参加した。

炭谷学長は、戦略コンサルティング会社時代に赴任したデンマークでの生活を機に「探究型」教育に関心を持った。競争



重要性を説き、現在は同大学、ラインネット・グローバルスクール（小学校・中学校）、ビジネス・ブレイクスルー大学（社会人）で教鞭をとっている。

セミナー前半では、探究型人材の考え方や授業紹介があった。炭谷学長の科目「探究実践」は、学生が社会課題について解決策の仮説を立案し、仮説検証を繰り返しながら解決策を練り上げ、実践するという内容である。課題を抱えている人々に対する「提供価値」が重要で、探究チャートを用いてこの仮説を立てた後、「人は喜ぶか」「独自性は何か」「収支は成立するか」の三点を検証する。実例として紹介された学生の実践内容は、体につけたセンサーの動きと映像を同期させ、街を歩いているような体験ができる「リハビリを長続きさせるシステム」だった。

セミナー後半では、探究実践のワークを体験。「災害時の対処」という社会課題をテーマにしたグループは、通話制限が発生した際の家族との連絡手段を検討し、アイデア出しは大盛り上がり、最後には良案がでた。炭谷学長からは「面白い」という評価と同時に「実在するものに近いので、より大きなアイデアを考えてみては？」との指摘があり、参加者からは「一つのアイデアに集中しすぎては着想が狭まる。学生が陥りそうな点も体験できた」という声もあった。

答えのない時代・新しいものを生み出すことが

求められている時代だが、「問題意識を持って、周囲と協力しながら世の中に貢献していく」人材を育むことの重要性を学べるセミナーとなった。